

わくわく園庭日記

蒲幼稚園 No.8 R 2, 10, 23

金木犀の甘い香りが園庭に漂っています。朝晩は冷え込むものの日中は過ごしやすく、外遊びには最適な季節になりました。子どもたちは園庭のあちこちに広がって、それぞれの興味・関心のもと元気に遊んでいます。ほんの一月前は、あれだけ水を求めていた子どもたちも、今はしゃがみ込んでじっくりと遊んだり、鬼ごっこやサッカーなど体を動かして遊んだり、友だちとごっこ遊びをしたり、空や雲の変化に気づいて伝え合ったり、しっかりと季節の変化を感じ取っていることが伺えます。実体験でしか味わえないこの感覚を大事にしていきたいと強く思いました。



土を握る

実は、ドロだんご作りはそんなに簡単なものではありません。土の質や水加減に加え、力加減も微妙に調節することが必要です。握る動作は赤ちゃんの頃から自分の身を守るために備わっている能力ですが、その力をコントロールし、自分の思い通りの形を作っていく力は遊びを通して育っていきます。力を入れ過ぎてダメ、弱すぎてもダメ、いつの間にかちょうどいい加減を身に付けていくのです。



オサクラインコの「にじいろちゃん」

以前お伝えした迷いインコの名前が決まりました。雪組、月組の子どもたちが考えたたくさんの候補の中で、一番多くの票を集めた「にじいろちゃん」に決定！鮮やかな黄緑色の体にコバルトブルーの尾っぽ、頬はほんのり赤く、「にじいろ」という名前はこの子にピッタリです！インコの特徴を捉え、どんな名前だと嬉しいかな？とよく考えて付けた名前だと思います。子どもたちは、「にじいろちゃん！」「あっピーって鳴いた」「私たちに返事してくれたのよね？」と声をかけ、親しんでいます。にじいろちゃんは、先輩「きらら」との生活にも慣れ、以前よりも落ち着いて過ごすようになりました。これからは「きらら」とともに「にじいろちゃん」にも声をかけてあげて下さいね。



納得のいくまで

硬いだんごで、尚且つツルツルのだんごを作るには根気が必要です。土を握ってすぐにできるものではありません。また「これで完成」と決めるのは自分。納得するタイミングが、それぞれなのもドロだんご作りの面白いところ。完成形が決まっているんじゃない！自分で決めればいいんです。

土山から水を流して遊んでいた姿から、ドロだんごを作る姿へと変化しました。友だちや先生と一緒に、そして一人で黙々と土を握っている姿を見かけます。

さら砂を求めて…

さら砂とは、ドロだんご作りに欠かせないサラサラの砂のことです。蒲幼稚園では代々受け継がれている呼び方です。

いろいろな場所で

どこのさら砂がいいかな？子どもたちは園庭の土の特徴をよく知っていて、あちこちでさら砂集めをしています。自分で見つけたり、友だちを見て知ったり。丸く握ったドロだんごにさら砂をかけ、大事に大事に磨きをかけていきます。



こうやって振るとね、アワアワになるよ！

いろいろな色の色水を作って楽しむようになりまし。ある子たちは、作った色水をペットボトルに移し、きれいに並べてジュース屋さんを開店。「もっといろいろな色を作りたいから待っててね」



道具を使って

こちらではほうきでさら砂を集めていました。道具を使うことに目を輝かせた子どもたち。目的に合わせて、道具の使い方を伝えていくことも私たちの大事な役割だと感じました。

今後、泥だんご作りを通して、いろいろな心の動きが見られるでしょう。土との触れ合いは、子どもにとって欠かせません。私たちは、園庭にいろいろな種類の土を整備し、子どもが選択して遊べる環境を整えたいと考えています。

竹馬づくり

前回のおたよりで竹馬についてお伝えしたところ、「竹馬作れますよ」と声を掛けていただいたり、ご家庭にある竹馬をくださったりと子どもたちの遊びや私たちの思いに賛同してくださる声が聞かれ、とても嬉しく思いました。来月には、在園児のおじいさまがいらっしゃり、子どもたちに竹馬を作る様子を見せて下さいます。お話を伺うと私たちも知らないことばかり！世代を超えた豊かな交流になるだろうと楽しみにしています。